



～ 社内が街の一部に ～ オフィスの新しい提案 フロアの1/3をパブリックスペースに オフィススペースにも社外の方の往来可能に

三井物産都市開発株式会社は、自社所有の日比谷セントラルビル（東京都港区西新橋1-2-9）3階へ本社を移転し、フロアの1/3に当たる約100坪をカフェ併設の『日比谷セントラル ザ ラウンジ』として一般に開放しました。オフィスエリアの執務ゾーンの中にも、社外の方が往来できるスペースを作り、社内のコミュニケーション促進はもちろんのこと、社外とのコミュニケーションにも注力した新しい形のオフィスです。

この新本社は 第36回日経ニューオフィス賞において「ニューオフィス推進賞」を受賞いたしました。



◆ビルオーナーならではのリモデルオフィスのプロトタイプを自ら体現◆ 環境配慮・社会貢献・地域貢献型オフィス改修により、ビル競争力の底上げを図る

地球環境への配慮

築年数が経過したビルを長く使い続けることで、環境への負荷に配慮。今後ビル内にて随時リノベーションを実施予定であり、その第一弾として3階部分を全面リニューアル。

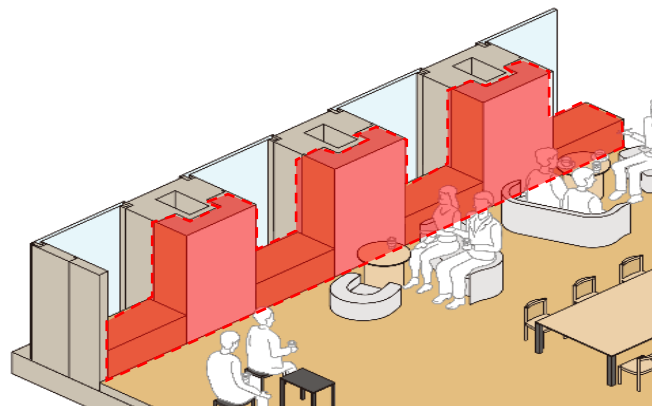
Before



After



ペリカウンターを意匠性・機能性を重視して改修。やわらかな自然光を室内に取り入れ、室内への直射日光を遮り、空間としての統一感と1フロアの連続性を確保。



Before



After



天井照明を改修。24時間周期の生体リズムと光の関係を照明制御に応用し、LED照明の色温度・波長・光の強さを制御し低照度でも快適性・生産性を維持しつつ、省エネ化。



エレベーターホールを含めたフロア全体を環境に優しい素材・機器へアップデート。ビルオーナーとして考える今後の環境配慮型ビル改修への布石に。

社会・地域への貢献

「オフィス」をビル共用部と専有部のセットで考え、街に開かれたスペースに。

Before

オフィス
(3階 約300坪)



After

オフィス
(3階 約200坪)

ラウンジ
(3階 約100坪)



ラウンジ

カフェ



アーティストとのコラボレーション（第1弾は金沢の伝統工芸作家）



誰でも利用可能なラウンジにカフェを設え、一般社外にも広く開かれた懐の深いフロアへ。

◆社内の人と社外の人が入り混じる新しい「オフィス」のかたち◆

ラウンジ

誰でも自由に利用できる空間。様々な人々が様々な目的で集まり、様々なコミュニケーションが生まれる。



▲誰もが利用できるラウンジ内カフェ



▲様々なシートを配置したレイアウト



▲一人のくつろぎスペース



▲ちょっとした雑談スペース

執務スペース

フリーアドレスを活用し、社内外の様々な方々とのコミュニケーションに適したスペースを多く設置。社内外の人たちとその時々に応じた作業が可能。



▲4面ガラスで視線も抜ける大会議室



▲オンライン会議も可能な個室ブース



▲他部署の社員と気軽に打合せができるタッチダウンスペース



▲コミュニケーションが取りやすい2名用スペース